



**千葉県立千葉**  
千葉市中央区  
12年受験倍率 **14.35倍**

**千** 葉県トップの公立進学校で、今年も東大合格者31人（うち現役16人）を輩出した県立千葉高校。その附属中である県立千葉中学校は設立5年目を迎え、1期生が高校2年に進級した。地元私学から「民業圧迫」と反発を受けた経緯もあり、「私立と異なる公立の一貫教育」を強く意識してきた。

公立  
トップ校を中高一貫にした千葉

# 生徒の個性を発揮させる 千葉中・高のリーダー教育

千葉県立千葉  
2012年 合格実績(高校)

|       |      |
|-------|------|
| 東大・京大 | 40人  |
| 早慶    | 301人 |
| MARCH | 248人 |

定員は1学年80人。高校は外部進学で240人と混合クラス編成のため、カリキュラムを練り上げて高校2〜3年次を受験対策に充てる。先取りはしない。高岡正幸校長は「私学と進学実績を競おうとは思っていない」と、受験教育とは一線を画す。

「長所であり、短所かもしれないが、結果を求めてあくせくしない」（高岡校長）という雰囲気の中、トップレベルの研究者や社会人らの講演、ゼミやプロジェクト形式のグループ学習、10日間の「ポストン海外異文化交流」など、多彩な行事を開催。生徒のやる気を刺激し、自主性を育てる。とはいえ授業は一般の中学より、かなり深い内容だ。プレゼンテ

ーションもこなす英語力で、高校の教員を驚かせる生徒たちも育ってきた。大山光晴副校長は「生徒同士が、長所を認め合い、自然に個性を発揮できる環境が整っている。まだ途中経過だが、これまでやろうと思っても難しかった、個性を尊重する教育ができてきた」と、リーダーを育てる教育への手応えを語る。

昨年80人全員、今年も海外留学の1人を除き千葉高に進学。ドロップアウトはいなかったが、成績のバラツキは大きくなりがち。入試を経ないマイナースも見受けられるという。昨年度の高校1年生の成績を見ると、千葉中からの進学者はトップグループの4分の1以上いるが、下位グループにも4分の1以上。それでも大山副校長は「これまでの千葉高にないエネルギーを持った生徒」と高校の活性化を期待する。高岡校長も「大学入試の傾向も変わってきている。大学側からも、千葉中のような教育を受けた学生が欲しいという声がある」と将来を見ずえる。

## 合格への道は険しいが 新たな教育の選択肢

公立中高一貫校の入試は学力検査ではなく適性検査。千葉中も思考力を問う。県内の誉田進学塾sirius鎌取の福田涉教室長は「私学受験ほどの知識は求められないが、大人のような考え方が必要。小学4年から受験勉強を始めれば、一定レベルに到達できる私立とは異なる」と見る。同塾では、小学6年の4月から計100時間余りの対策講座を開講し、環境問題など正解のないテーマについて思考・記述力を訓練する。

千葉中は倍率も高く、合格の道は険しいが、「結果がついてこなくても、子どもにとってよかつたと思える勉強ができる。自分の意見を言わない最近の子どもたちが成長するのを感じられる」と、福田氏は話す。子どもたちのよりよい未来という目指すゴールは同じでも、そこに至る過程はさまざま。千葉中の教育は、その過程の一つの選択肢となっている。



75人が参加した今年のポストン海外異文化交流。昨年は利根川・MIT教授の講義も受けた